

令和3年度教育フォーラムの総括（感想）

関東学院大学法学部准教授 牧瀬稔

1 全体の感想

- ・ 全体的には、トラブルもなく、うまく進んだと考えている。大学の評価で言えば、秀・優・良・可・不可のうち「優」と判断している（「秀」でない理由は、以下の「改善点及び今後の提案」があるからである）。
- ・ 今回の教育フォーラムは限られた時間であったが、多様な意見が抽出できた。「横須賀市の目指す子ども像および教育の姿」を把握するという所期の目的は達成できたと考える（ただし、多様な意見を施策・事業に落とし込んでいくのは担当課の力量次第である）。
- ・ ラウンドテーブル後のフロアとの意見交換も、実に多様な意見がでてきた。思い詰めて泣いてしまう参加者もいたし、批判的な意見もあった（批判のための批判意見ではなく、未来を見据えた建設的な批判意見である）。そういう見解を言える「雰囲気」を教育フォーラムは形成できたため「良かった」と判断している（行政主体のフォーラムは、なかなか言いたいことを言えないフォーラムが多い）。その意味で、教育フォーラムは成功だったと捉えている。
- ・ 参加者の思い出づくりに貢献したと考えている。担当課は大変とは思いますが、引き続き、このような教育フォーラムを企画・開催してほしい。

2 改善点及び今後の提案

- ・ 全体的に時間が少ないと感じがした。一案だが、10:30にスタートし、午前はラウンドテーブルとする（90分程度）。午後はラウンドテーブルの意見を得た上で、ワールドカフェを実施する（120分程度）ほうが、時間も余裕があり、より深い意見交換になった気がする。また、ランチ時間も参加者がテーブルを囲んで談笑すると、よりいい思い出になると考える。
- ・ ワールドカフェによる意見の機会の聴取は、回数がもう少しあったほうがよいと考える。理想は、横須賀市の行政区単位で実施するのが望ましい（行政区は10前後ある？）。しかし、それだと担当課の負担が大きくなるため、横須賀市を3～4地域に区切り、それぞれで開催すると、横須賀市教育行政へのファン（理解者）も増えることになる。さらに多くの意見を聴取することにつながり、よりよい結果になると思う。
- ・ あるいは、この教育フォーラムを担当課主体（教育委員会主体）で実施するのではなく、市民等関係者を中心とした実行委員会形式で進める方がいいかもしれない。実行委員会に参加した関係者が教育フォーラムを進める過程が思い出となり、横須賀市教育行政へのファンが増えると考えられる。
- ・ 二酸化炭素濃度計を活用し、空気の停滞度を把握しながら進めた。会場の空気の循環が悪いようで、二酸化炭素濃度計の数値が上昇し続けていた（とは言え、正常の範囲内であった）。コロナ禍においては会場をよく検討したほうがよいと思った（検討していると思われるが、「より検討する」というニュアンスである）。

※事前準備、関係者との調整、当日の運営など、事務局の教育政策課の皆様には大変にお世話になりました。記して感謝申し上げます。

以上